

諸報告：教育・研究活動報告 — 1 —

京都大学大学院医学系研究科人間健康科学
専攻設置への期待と要望

—在学生を対象とした調査結果から—

我部山キヨ子*, 酒井 浩**, 片山 由美*
木戸 隆宏***, 池添 冬芽****, 笹田 昌孝***

I. は じ め に

近年、生活水準の向上、生活者の医療に対するニーズの多様化、医療技術の進歩、少子高齢化による人口構造の変化やそれに伴う医療費のGNPに占める割合の急速な増大などに伴い、保健・医療・福祉を取り巻く環境は大きく様変わりし、それらに対応し得る医療専門職の育成が緊急な課題として要請されている。そのため、わが国では1992年頃より看護系大学が増え始め、2004年4月の時点で看護系大学119校（入学定員8,869人）、看護系大学院修士課程73校（同1,254人）、博士課程25校（同232人）¹⁾と急増しているのは周知の通りである。

この間の大学院教育の大きな変化として、1998年の大学審議会大学院の報告書²⁾によると、「国際的にも社会の各分野においても指導的な役割を担う高度の専門的な知識・能力を有する者の養成や再学習などに対する期待に答えるため、大学院修士課程は、今後、高度専門職業人養成の目的に即した教育研究体制、教育内容・方法等の整備を図り、その機能を一層強化していくことが急務となっている」とし、研究者養成に傾きがちだった大学院から、高い専門知識を持った職業人を養成するための実践的教育を行う実務型大学院への転換を打ち出した。そして、2003年には高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識と卓越した能力を培うことを目的とした「専門職大学院設置基

準」が制定される等、大学院修士課程においては、従来の研究者育成から、研究者育成と高度専門職業人の育成の両方にその重点を移しつつある。

本保健学科では、平成15年10月に保健学科の設置が認められ、「幅広い教育課程に裏付けられた、医学・医療の全体を視野に入れた健康科学分野の高度専門医療職を育成する」ことを目標に、平成16年4月から学生募集を開始した。さらに、これを基盤として本学科では医療教育のさらなる向上を目指して、大学院医学系研究科人間健康科学系専攻（修士課程）の設置を計画し、設置の理念に基づいて医療人の臨床能力を重視した臨床大学院を目標に、その準備を進めている。

今回、京都大学大学院医学系研究科人間健康科学専攻（修士課程）の設置の期待とその展望を検討するために、在学生を対象とした調査を行った。

II. 調査対象および方法

- 1) 調査時期：2004年7月
- 2) 調査対象：本学保健学科に在籍する1回生、合計139名
- 3) 調査方法：アンケートを用いた集合調査
- 4) 回収件数：139名、回収率：100
- 5) 質問紙は、問1～4は回答者の専攻などの背景、問5は大学院への進学希望、問6～8は本修士課程への設置の期待、受験希望など、問9～10は受験資格や入試制度、問12～13は人材育成・領域・講座への希望、問14は教育制度の希望、問15は修了後の進路から構成した。
- 6) 倫理的配慮：調査の主旨、無記名、自由意思による参加、結果の利用方法などを説明し、賛同を得た者に配布し、その場で記入を依頼し回収した。

III. 結果と考察

1. 回答者の背景（問1～4、表1）

回答者は総数139名で、専攻別にみると看護学専攻67名、検査技術科学専攻36名、理学療法学専攻18名、作業療法学専攻18名であった。全専攻の平均年齢は 20.0 ± 2.4 歳で、理学療法学専攻は 22.7 ± 6.0 歳で、4専攻中で年齢が最も高かった。出身地別にみると、近

* 京都大学医学部保健学科看護学専攻
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53
Department of Nursing, School of Health Sciences,
Faculty of Medicine, Kyoto University
** 京都大学医学部保健学科作業療法学専攻
Department of Occupational, School of Health Sciences,
Faculty of Medicine, Kyoto University Therapy
*** 京都大学医学部保健学科検査技術科学専攻
Department of Laboratory Sciences, School of Health
Sciences, Faculty of Medicine, Kyoto University Ther-
apy
**** 京都大学医学部保健学科理学療法学専攻
Department of Physical Therapy, School of Health Sci-
ences, Faculty of Medicine, Kyoto University Therapy
受稿日 2004年9月17日

畿地方出身者は91名 (51.0%) とほぼ過半数を占め、県別では大阪23.0%, 兵庫13.7%, 京都7.9%が多かった。

表1 対象 (問1-4)

単位: 人 (%)

専攻	回収数	年齢 (歳)
全専攻	139 (100)	20.0±2.43
看護学	67 (48.2)	19.0±0.98
検査技術科学	36 (25.9)	18.7±0.91
理学療法学	18 (12.9)	22.7±6.01
作業療法学	18 (12.9)	19.6±1.50
出身地	近畿地方 71 (51.0)	
	大阪 32 (23.0)	兵庫 19 (13.7)
	京都 11 (7.9)	滋賀 5 (3.6)
	奈良 3 (2.2)	和歌山 1 (0.7)
	その他 68 (49.0)	

2. 大学院への進学希望とその理由 (問5, 図1)

「あなたは大学院への進学を考えたことがありますか」(問5) に関して、全専攻では「はい」81.4%, 「いいえ」18.6%であった。進学希望が最も高いのは検査技術科学の94.4%で、最も低いのが理学療法学の55.6%であったが、4専攻とともに進学希望者が過半数以上と極めて高率を示した。また、進学を希望する理由としては、全専攻では「専門職医療人になりたいから」41.8%, 「研究者になりたいから」34.1%, 「博士課程へ進学したいから」31.8%が高率であった。また、「若い間に研究に打ち込み、学問を深める機会を持ちたい」23.3%などの純粋に学問に打ち込みたいとする理由も1/4に認められた。専攻別にみると、看護学専攻・理学療法学専攻・作業療法学専攻はいずれも「専門職医療人になりたいから」が最も高率であった

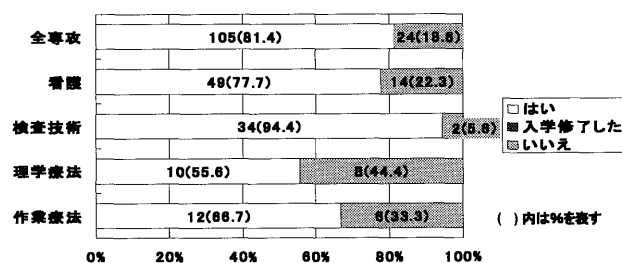


図1 あなたは大学院への入学を考えたことがありますか? (問5)

表2 その理由は?

	看護	検査	理学	作業	全専攻
1. 専門職医療人になりたいから	30	12	6	6	54 (41.8)
4. 研究者になりたいから	22	13	4	5	44 (34.1)
5. 博士課程へ進学したいから	23	11	4	3	41 (31.8)
9. 若い間に研究に打ち込み、学問を深める機会を持ちたい	12	9	5	4	30 (23.3)
2. 教育者になりたいから	12	6	1	3	22 (17.1)
8. 国際保健医療部門で働きたいから	10	7	2	1	20 (15.5)
6. 県や国の保健医療部門で働きたいから	7	7	2	1	17 (13.2)
3. 管理者になりたいから	4	4	0	0	8 (6.2)
7. 独立して事業を起こしたいから	4	1	0	1	6 (4.7)
10. その他	6	2	1	3	12 (9.3)
・養護教諭になるために臨床心理士の資格がほしいから					・留学する機会や人脈がほしいから
・とりあえず勉強だけやりたいから					・大学のカリキュラムだけでは不十分な点もあるはずだから
・教育者になることを期待されていたから					・兄弟も進学したから
・卒業後、さらに深く学びたい					・心理学を深く学びたい

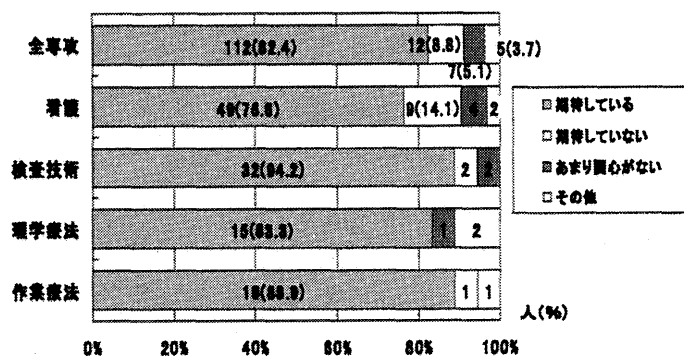


図2 本学科に臨床大学院を設置することについて、考えをお聞かせください (問6)。

が、検査技術科学専攻では「研究者になりたいから」が最も高率を示した(表2)。

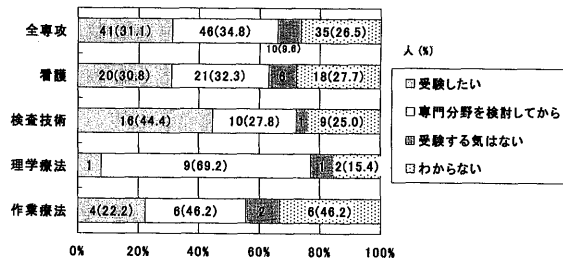
3. 本修士課程への設置の期待, 受験希望および受験の障害(問6~8, 図2~4)

「本学科に臨床大学院を設置することについて、考えをお聞かせください」(問6, 図2)に関して、全専攻では「期待している」82.4%, 「期待していない」8.8%, 「あまり関心がない」5.1%, 「その他」3.7%であった。専攻別に見ると、「期待している」は4専攻ともにほぼ8割以上を示し、特に検査技術科学94.2%, 作業療法学88.9%で高率を示した。

「本学科に臨床大学院を設置した場合、受験を希望しますか」(問7, 図3)に関して、全専攻では「専門分野を検討してから」34.8%が最も多く、次いで「受験したい」31.1%, 「わからない」26.5%で、「受験する気はない」は僅か7.6%であった。専攻別に見ると、「受験したい」の割合が最も高いのが検査技術科学44.4%で、最も低いのが理学療法学5.6%であったが、「専門分野を検討してから」を含めると、受験希望者は4専攻ともに過半数に及んだ。

「臨床大学院を受験するにあたり、問題になる要因は何ですか」(問8, 図3)に関して、全専攻では

本学科に臨床大学院を設置した場合、受験を希望しますか？(問7)



臨床大学院を受験するにあたり、問題になる要因は何ですか？(問8)

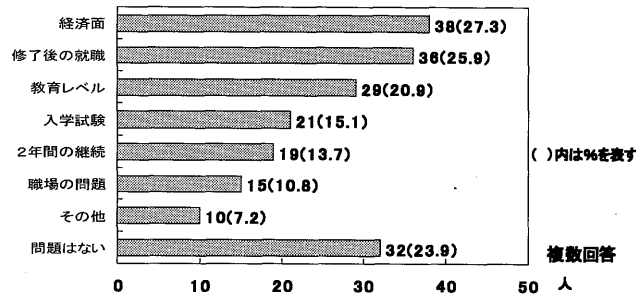


図3 本修士課程の受験希望と受験における問題

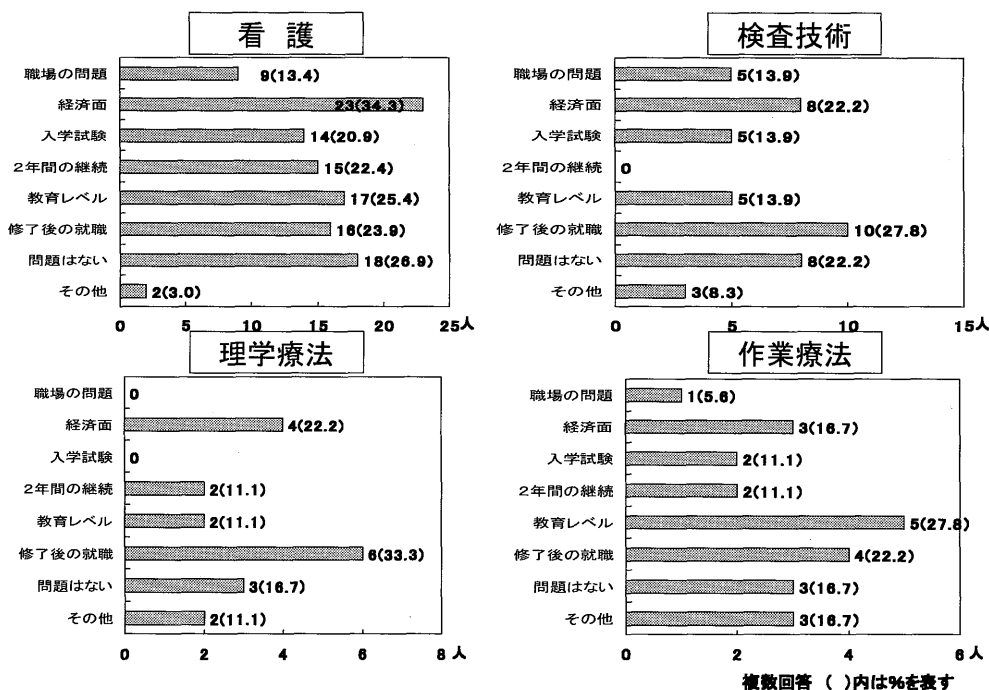


図4 臨床大学院を受験するにあたり、問題になる要因は何ですか？(専攻別, 問8)

「経済面」27.3%、「修了後の就職」25.9%が高率で、「問題はない」とする者は23.9%であった。専攻別において問題になる要因の1位に挙げられたのは、看護学専攻では「経済面」34.3%、検査技術科学専攻と理学療法学専攻はいずれも「修了後の就職」27.8%（検査）、33.3%（理学）、作業療法学専攻では「教育レベルについていけるか」27.8%であった（図4）。表3は受験の障害となる要因の具体的内容である。最も多いのは「大学院にいきながら働けるかどうか」「大学院修了後に同じ職場に戻れるか」「一度現場をやめて、再び現場へ戻れるか」などの職場の問題や、「一度辞めるのであれば再就職にくそう」「就職できないかもしれない、不安」などの修了後の就職の問題、「働きながら学べるのか」などの経済的な問題など、修学継続の問題と修了後の就職の問題への不安が多かった。

4. 本修士課程の受験資格や入試制度（問9～10、図5～6）

「臨床大学院で学ぶ場合、受験資格としてどの程度の実務経験が適切とお考えですか」（問9、図5）に対して、全専攻では「2年」44.4%が最も多く、次いで

で「1年」19.5%、「3～5年」と「5年以上」を合わせると17.3%で、「必要ない」は18.8%であった。「2年」の実務経験が必要とする割合は、専攻別に見ると作業療法学専攻70.6%が最も高率で、次いで看護学専攻46.8%であり、逆に検査技術科学と理学療法学は「1年」と「必要ない」を合わせると過半数に及んだ。入試制度として「社会人特別選抜入試を希望しますか？」（問10、図6）に対しては、全専攻では「希望する」21.8%、「希望しない」27.8%、「どちらともいえない」50.4%であった。専攻別にみると、「希望する」が最も多いのは理学療法学35.3%で、「希望しない」が最も多いのが検査技術科学33.3%であった。

5. 本修士課程の人材育成・領域・講座への希望

1) 人材育成への希望（問12、図7-1、2）

「本学大学院では特にどのような人材育成を希望しますか」（問12、図7-1）について、全専攻では「専門職医療人の育成」が最も多く64.7%、次いで「研究者の育成」49.6%で、「人間性豊かな医療サービスを創設・提供できる人材の育成」48.9%、「統合的・総合的視野を持った人材の育成」43.9%、「国際的視野を持った人材の育成」42.4%であった。専攻別でみると、「専門職医療人の育成」は作業療法学が72.2%と最も高率を示し、4専攻ともにいずれも第1位で60%以上を占めた。次いで多かったのは、看護学「人間性豊かな医療サービスを創設・提供できる人材の育成」52.2%、検査技術学「研究者の育成」55.6%、理学療法学「国際的視野を持った人材の育成」66.7%、作業

表3 受験の障害となる要因の具体的内容

1. 職場の問題
 - ・実際に看護婦になる気がないから
 - ・大学院に行きながら働けるかどうか
 - ・途中で臨床をやめて大学院に移れるか
 - ・大学院終了後に同じ職場に戻れるか
 - ・一度現場をやめて、再び現場へ戻れるか
 - ・入った場合と入らない場合の違いは？
2. 経済的な問題
 - ・親に負担はかけられないので
 - ・親も高齢で定年しているの
 - ・働きながら学べるのか？
3. 入学試験の問題
 - ・自信がない
 - ・まだ実施していないので対策が立てられない
 - ・受験勉強がたいへん
 - ・受験勉強と職場の両立は難しい
4. 修士学生として2年間を継続できるかどうかという問題
5. 修士課程の教育レベルについていけるかどうか
6. 修了後の就職の問題
 - ・過去のデータがない
 - ・一度辞めるのであれば再就職にくそう
 - ・臨床大学院に行くことでどれほど有利なのか
 - ・2年間の技術的遅れについて
 - ・受け入れてくれる職場があるかどうか
 - ・就職できないかもしれない、不安
7. 特に問題はない
8. その他
 - ・何を研究するのか明確にわからない
 - ・結婚、出産の時期
 - ・年齢の問題
 - ・臨床大学院についてよくわからない

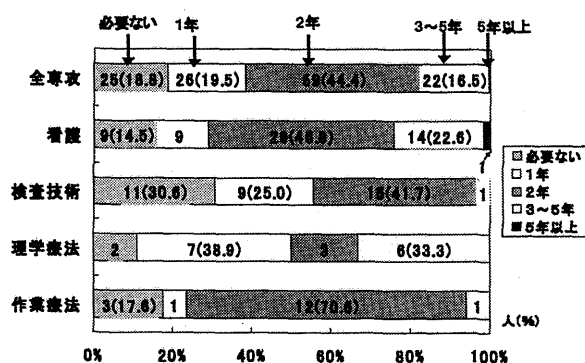


図5 臨床大学院で学ぶ場合、受験資格としてどの程度の実務経験が適切とお考えですか？（問9）

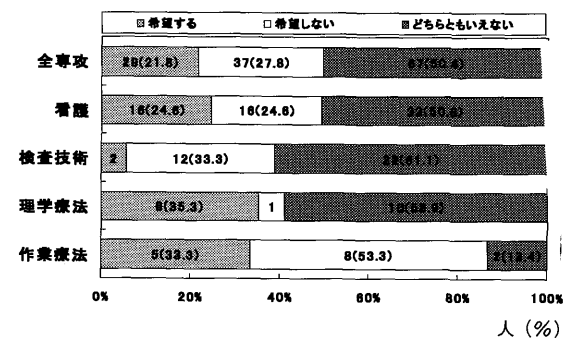


図6 社会人特別選抜入試を希望しますか？（問10）

療法学「統合的・総合的視野を持った人材の育成」55.6%であった（図7-2）。

2) 専攻したい領域や講座（問13，図8）

「専攻したい領域や講座は次のどれに該当しますか」（問13，図8）について，希望が高かったのは，看護学専攻では「先進医療学」55.2%，「救急災害医療学」43.3%，検査技術科学専攻では「医療検査展開学」75.0%，「先進医療学」52.8%，理学療法学専攻では「理学療法学」94.6%，「先進医療学」44.4%，作業療法学専攻では「作業療法学」88.9%，「先進医療学」55.6%であった。4専攻ともに共通して希望が高かったのは「先進医療学」であった。

6. 本修士課程において採用する教育制度の希望

1) 教育制度の希望（問14-1，3～5，図9）

「修士課程・博士課程との分離型だけでなく，大学

院（前期・後期課程）一環コースを希望しますか」（問14-1，図9）について，全専攻では「分離型のみでよい」13.2%，「一環コースのみでよい」7.8%，「両方併存がよい」79.1%であった。

「大学院生でなくとも講義を聴講できる制度がある」といとお考えですか」（問14-3）について，全専攻では「必要」82.8%，「必要でない」17.2%であった。「研究生制度があればよいとお考えですか」（問14-4）では，「必要」95.3%，「必要でない」4.7%であった。「長期履修制度があればよいとお考えですか」（問14-5）について，全専攻では「必要」82.0%，「必要でない」18.0%で，いずれも必要とする回答が8割を占めた。

2) 臨床大学院への意見（問14-2，図10）

「臨床大学院だけでなく，通常の大学院を希望され

本学大学院では特にどのような人材育成を希望しますか？（問12）

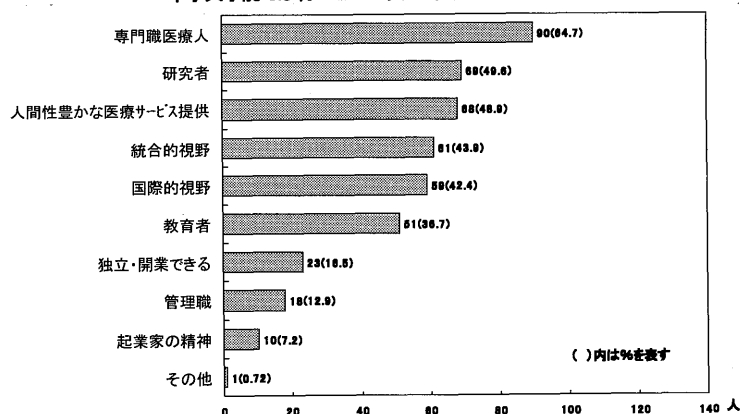


図7-1 人材育成への希望（全専攻）

本学大学院では特にどのような人材育成を希望しますか？（問12）

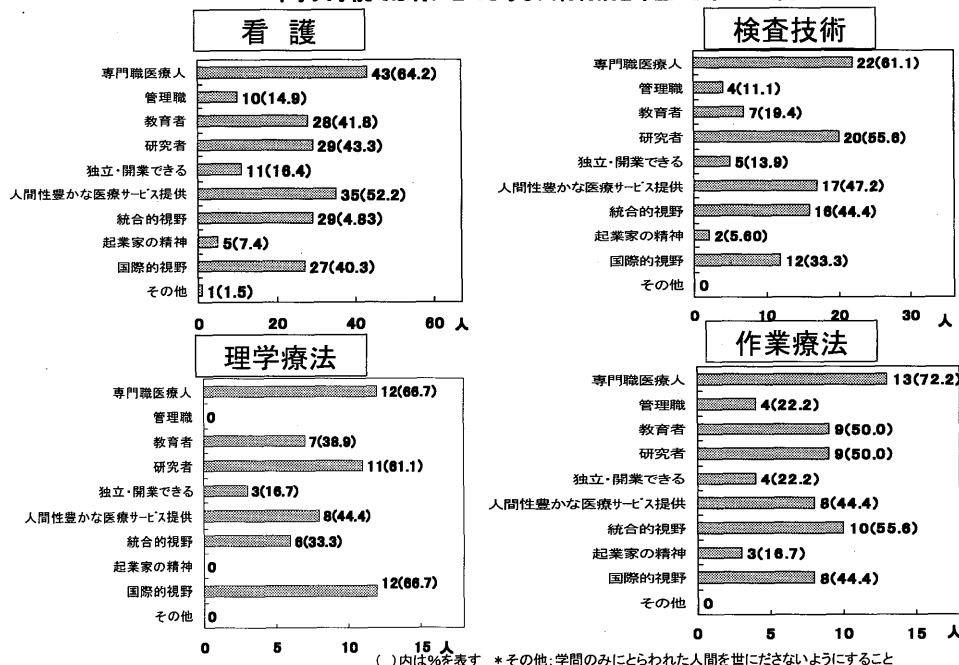


図7-2 人材育成への希望（専攻別）

臨床大学院で学ぶとしたら、専攻したい領域・講座は次のどれに該当しますか？(問13)

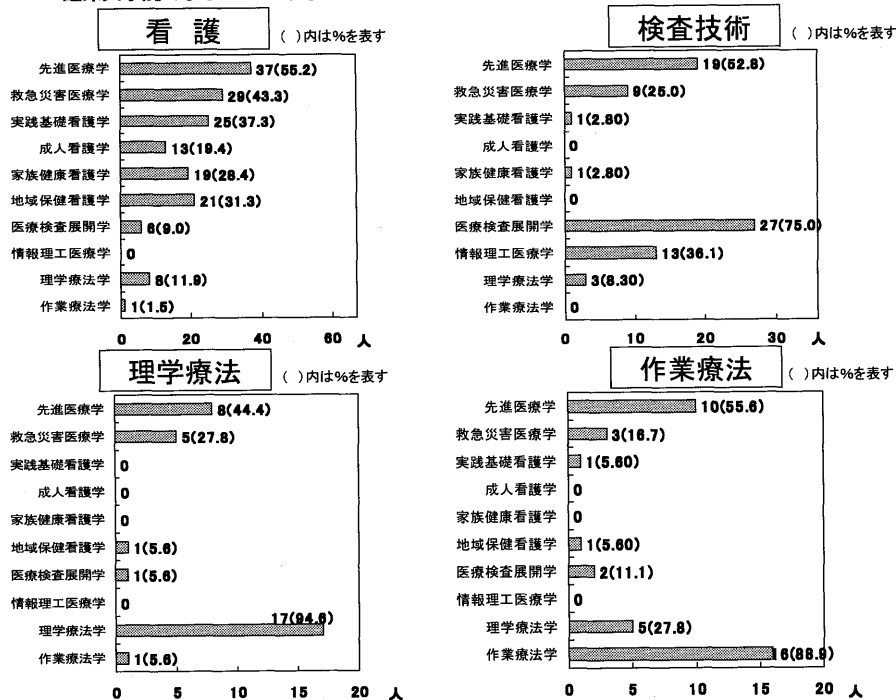
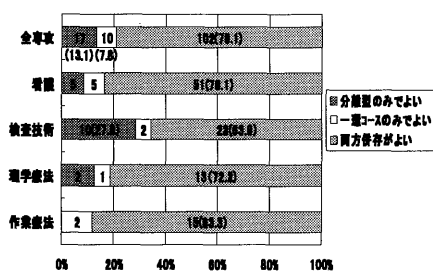
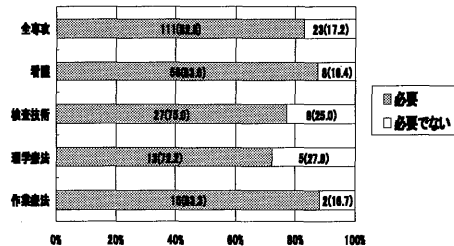


図8 専攻したい領域・講座

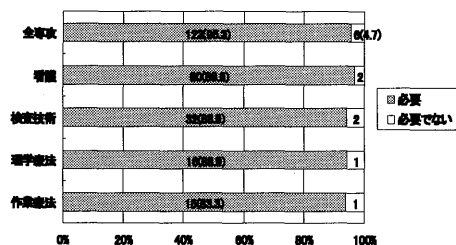
修士課程・博士課程との分離型だけでなく、大学院(前期・後期課程)一環コースを希望されますか？(問14-1)



大学院生でなくとも講義を聴講できる制度があればよいとお考えですか？(問14-3)



研究生制度があればよいとお考えですか？(問14-4)



長期履修制度があればよいとお考えですか？(問14-5)

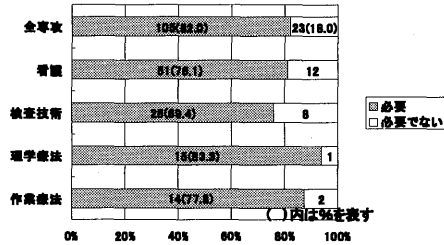


図9 教育制度の希望

ますか」(問14-2, 図10)について、「臨床大学院のみでよい」11.2%,「通常の大学院のみでよい」7.5%,「両方併存がよい」81.3%であった。「臨床大学院で学ぶ場合,どのような時間帯を希望しますか」(問11)について,全専攻では「昼間帯」48.5%,「昼夜間帯」29.9%,「夜間帯」9.0%,「集中講義帯」10.4%であった。臨床大学院に関する具体的意見では,「臨床経験者を受け入れるという方法はよい」という意見がある一方で,「他にどんな制度があるか説明して欲しい」「臨床大学院をもっと詳しく説明して欲しい」な

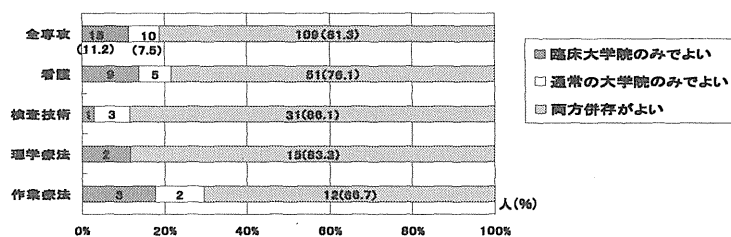
どの意見も見られた(表4)。

これら教育制度の希望および臨床大学院への意見については,4専攻ともにほぼ同じ傾向を示した。

7. 修了後の進路(問15, 図11-1, 2)

「あなたが臨床大学院を修了したと仮定すると,修了後の進路はどのように考えますか」(問15, 図11-1)について,全専攻では「病院勤務」47.5%,「専門職医療人として働く」44.6%,「博士課程へ進学」33.1%が高かった。専攻別においても,4専攻ともに「病院勤務」+「前任病院勤務」が最も多く,次いで

臨床大学院だけでなく、通常の大学院を希望されますか？（問14-2）



臨床大学院で学ぶ場合、どのような時間帯を希望しますか？（問11）

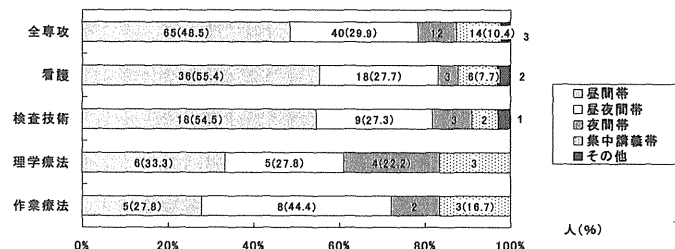


図10 教育制度の希望

表4 臨床大学院に関する意見（問16）

- 他の大学院，世界ではどんな制度があるのかなど，いろいろ説明してほしい
- 臨床経験者を受け入れるという方法は良い
- 発展の一躍を担いたいと思う
- 臨床大学院という言葉初めて聞いた よくわからないのでもっと詳しく説明してほしい
- 学習に適した良い環境
- 臨床大学院だけで一般の保健学科に通じる大学院はできないのですか，一般の大学を目指して入学した
- 今は関心がない

「専門職医療人として働く」が多く，臨床志向の傾向が示された（図11-2）。

Ⅳ. ま と め

京都大学医学部保健学科に在籍する1回生139名を

対象に，臨床大学院を目標にした京都大学大学院医学系研究科人間健康科学系専攻（修士課程）の設置に関する要望を調査し，以下の結果を得た。

1. 本修士課程に期待する者は82.4%を占め，設置への関心の高さが示され，実際に「受験したい」31.1%，「専門分野を検討してから」34.8%と，受験希望は両方で7割に達した。

2. 受験の障害となる要因は，「経済面」27.3%，「修了後の就職」25.9%であった。

3. 臨床大学院の受験資格としては実務経験2年44.4%が最も多く，社会人特別選抜入試の希望21.8%は低率であった。

4. 大学院でどのような人材育成を希望するかについては，「専門職医療人の育成」64.7%，「研究者の育成」49.6%，「人間性豊かな医療サービスを創設・提供できる人材の育成」48.9%，「統合的・総合的視野

もし、あなたが臨床大学院を修了したと仮定すると、修了後の進路はどのように考えますか？（問15）

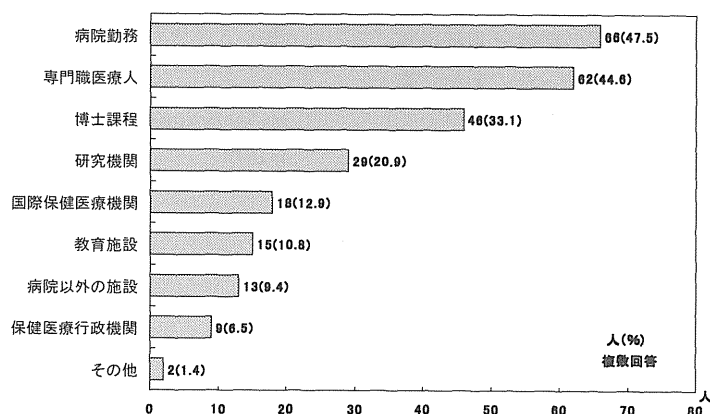


図11-1 大学院修了後の進路（全専攻）

もし、あなたが臨床大学院を修了したと仮定すると、修了後の進路はどのように考えますか？(問15)

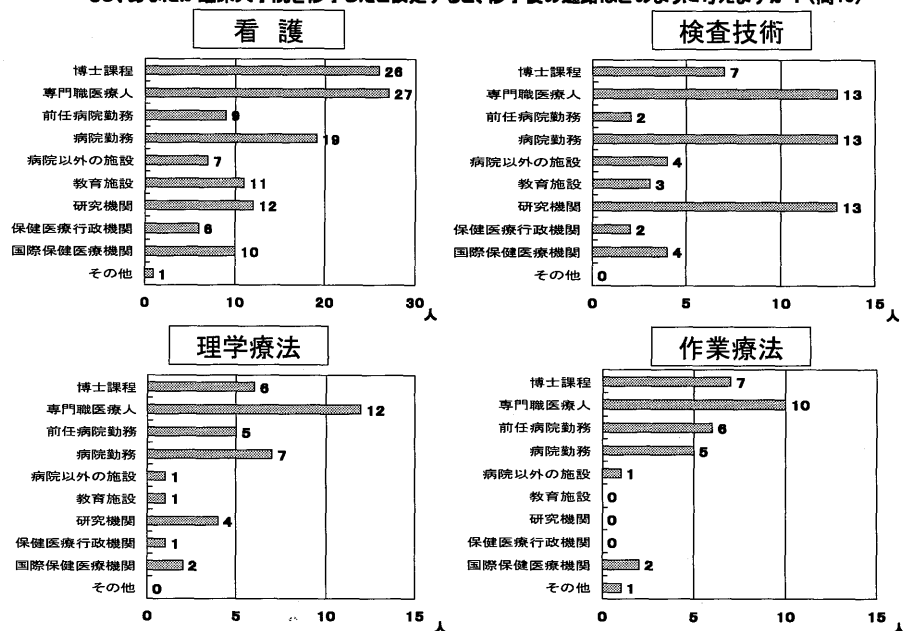


図11-2 大学院修了後の進路(専攻別)

を持った人材の育成」43.9%、「国際的視野を持った人材の育成」42.4%で、臨床志向と専門を含む広い視野を目指す志向が認められた。

5. 専攻したい領域や講座は、4専攻ともにそれぞれの専門講座に加えて、「先進医療学」の希望が高かった。

6. 教育制度の希望としては、修士・博士課程の分離型と一環コースの「併存型」の希望79.1%、聴講制度の希望82.8%、研究生制度の希望95.3%、長期履修制度の希望82.0%で、いずれも高率であった。

7. 臨床大学院への意見は、臨床大学院と通常の大学院の「両方併存」を81.3%が希望しており、講義の時間帯の希望は「昼間帯」48.5%、「昼夜間帯」29.9%であった。

8. 修士課程修了後の進路は、「病院勤務」47.5%、「専門職医療人として働く」44.6%と、臨床志向が強かった。

以上のように、本学医学部保健学科の在学生の調査結果から京都大学大学院医学系研究科人間健康科学専攻(修士課程)の設置に関する学生の期待は非常に高く、受験希望も極めて多いことが分かった。また、本修士課程が志向する臨床大学院に関する意見についても、大学に求める人材の希望として、「専門職医療人

の育成」や「人間性豊かな医療サービスの創設・提供ができる人材の育成」が高く、修了後の進路としても「病院勤務」を希望する者や「専門職医療人として働く」が高く、臨床志向の傾向が見られ、本学の教育理念は学生の希望に沿っていることが分かった。教育内容としても、それぞれの専門領域の教育に加えて、全専攻で「先進医療学」に対する期待が大きき、今後各専門科目と複合科学科目の教育と研究の中で、先進医療学をどのように教授していくかを具体的に検討していくことが課題である。

本調査から、京都大学・京都大学病院に蓄積された有形無形の財産を活用し、高度先進医療を担い、かつ少子高齢化に対応できる保健医療の専門職を育成するために、各領域の専門性を深めることはもちろんのこと、医療の統合性・継続性を究明する大学院設置が強く望まれていることが明らかとなった。

文 献

- 1) 石井邦子：講演「大学における助産師教育の現状と課題」, 平成16年度全国国立大学助産師教育専任教員会議の資料より, 2004年6月
- 2) 大学審議会大学院部会：21世紀の大学像と今後の改革方策—競争的環境の中で個性が輝く大学—(答申), 1998年10月